

大学職員のための情報検索講座  
ー大学職員に求められる情報収集力  
(情報リテラシー) とはー

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-10-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 恵 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/438">https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/438</a>

# 大学職員のための情報検索講座

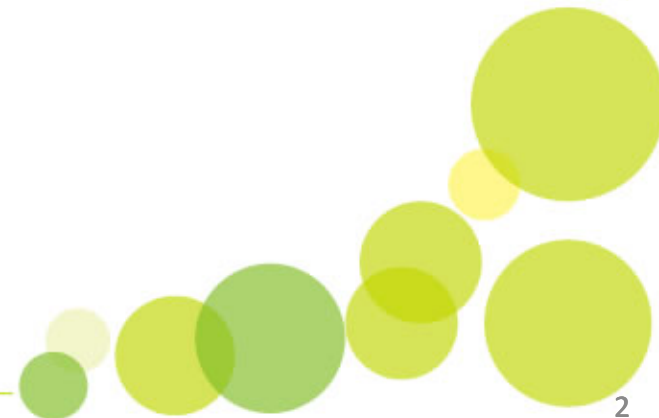
－大学職員に求められる情報収集力  
(情報リテラシー) とは－

2013年6月15日 (土)  
大学行政管理学会 2013年度第1回東北地区研究会  
東北学院大学図書部図書情報課 佐藤 恵

## 本日のねらい

1. 大学職員に求められるスキルとは
2. 情報リテラシーとは
3. 大学職員にとっての情報リテラシー能力とは
4. 情報収集の手法
5. インターネット上の情報を利用する際の留意点
6. 著作権と資料への引用時の表記ルール

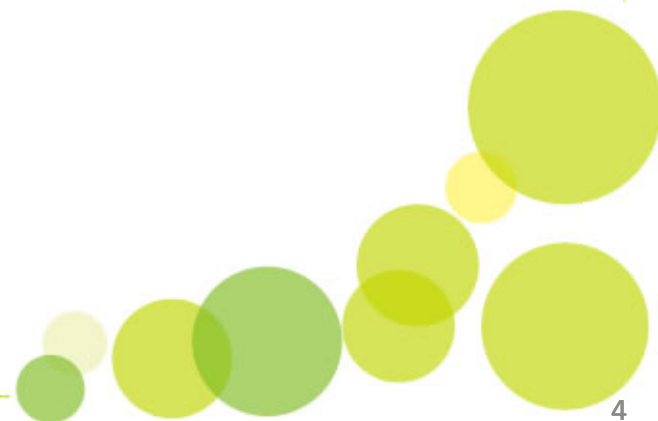
## 参考文献



- 大学職員に求められる情報リテラシー能力を知る
- 情報の特性を知る
- 多くの情報の中から本当に必要な情報を見極める
- 企画書等への情報の引用・著作権について知る
- 多様なツールを活用した情報収集・活用法を体験する
- 図書館の持つ情報資源を知る

情報の特性を知ることにより、  
業務効率化と質の向上に繋がっていただけたら幸いです

# 1. 大学職員に求められるスキルとは



# 1. 大学職員に求められるスキルとは

1970年以降の大学職員の役割・能力・SDの推移表

	1970-1990	1990-2000	2000-	現在（今後）
役割	定型的業務 (補助員・事務員)	調整的業務 (教育・研究支援、 大学運営)	※分析型戦略的業務 (大学経営・ 個々の業務企画)	※創発型戦略的業務 (大学全体の目標達成) (組織で教職協働)
能力	労働者	コーディネーター	アドミニストレーター	プロフェッショナル
能力 開発 (SD)	効率化 事務処理速度	意識改革 教育・研究の理解	問題発見・解決 経営専門能力	戦略思考 教育経営専門能力
	-	研修	強い必要性 (OJT主体・体系的 研修・大学院)	課題達成型

これまでの分析型戦略的業務は、現場の課題を改善していくことを視点においたが、今後の大学職員に求められている役割とは、**創発型戦略的業務すなわち大学全体を視点に新しいもの（教育）を教員と共に創りあげていくこと**と考える。

# 1. 大学職員に求められるスキルとは

大学行政管理学会「大学人事」研究グループ「大学職員人事政策に関する調査」（2004年）より

Q. 「21世紀の大学が必要とする人材」は次のいずれとお考えですか。（6つ選択してください）

調査対象：大学行政管理学会加盟大学人事担当者 回答大学数80校

選択肢	大学数	%	選択肢	大学数	%
問題解決・政策提案能力を持った人材	71	88.8	対人関係に優れた人材	24	30.0
マネジメント能力に優れた人材	61	76.3	対処能力に優れた人材	19	23.8
広い視野と先見性を持つ人材	50	62.5	強い精神と健全な精神を持つ人材	17	21.3
情報収集・調査・分析能力に優れた人材	47	58.8	ゼネラリスト	9	11.3
高い専門性を持つ人材	43	53.8	企業家マインドを持つ人材	5	6.3
目標達成意欲の強い人材	40	50.0	一生懸命努力する人材	4	5.0
チャレンジ意欲の強い人材	32	40.0	その他	0	0.0
マーケティングマインドを持つ人材	28	35.0	無回答	0	0.0
使命感と自発性にあふれる人材	24	30.0			

# 1. 大学職員に求められるスキルとは

---

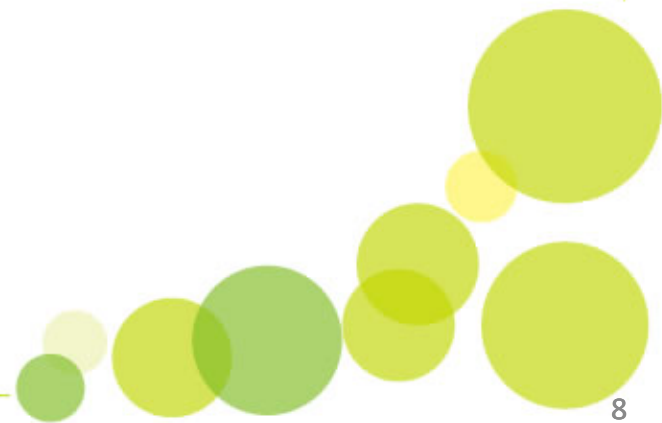
## 情報収集・活用能力

若手のうちに身に付けておく基礎的なスキル

中堅以上となったときにこれらの能力をベースに  
さらに業務の質を高める必要がある

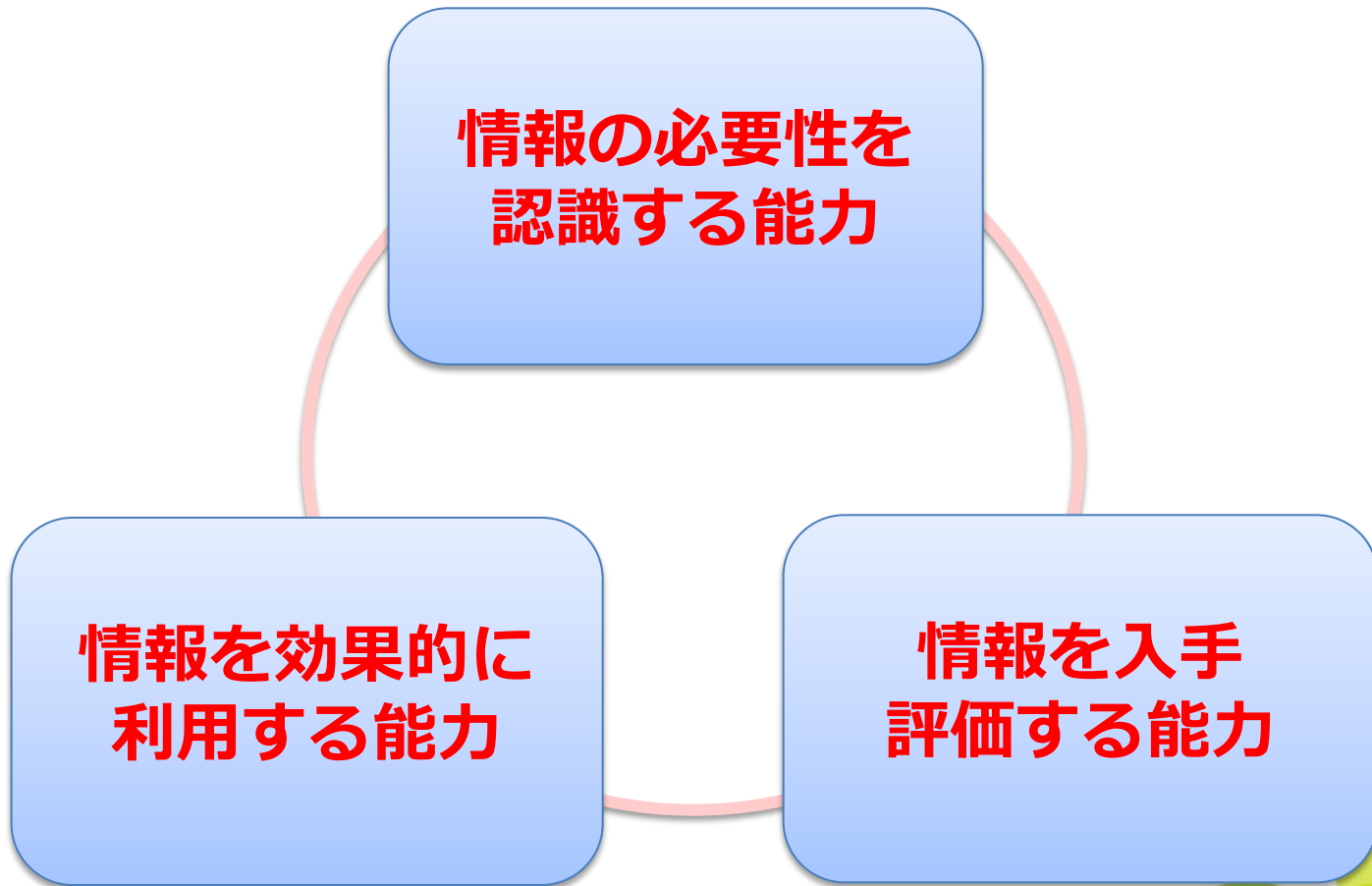


## 2. 情報リテラシーとは



## 2.情報リテラシーとは

---



米国図書館協会（ALA）．『情報リテラシー委員会最終報告書』，1989．

## 2.情報リテラシーとは

---

### 情報リテラシー能力基準

- ・ 必要な情報の性質と範囲を見定める
- ・ 必要な情報に効果的かつ効率的にアクセスする
- ・ 情報と情報源を批判的に評価し、選択した情報を自らの知識基盤と価値観に組み入れる
- ・ 個人として、あるいはグループのメンバーとして、特定の目的を達成するために情報を効果的に利用する
- ・ 情報の利用とアクセスを取り巻く多くの経済的・法的・社会的な問題を理解し、倫理と法律に反しないように情報を利用する

米国大学・研究図書館協会、『高等教育のための情報リテラシー能力基準』, 2000.

## 2.情報リテラシーとは

### ☆日本における情報リテラシーの解釈

IT機器やソフトの操作スキル = 情報リテラシー？

コンピュータリテラシーとほぼ同義で使われている

「情報リテラシー」はデジタル情報を含む「情報の適切な扱い方」  
IT機器・ソフトの操作スキルを身に付けるだけでは、本当の意味での  
「情報の活用」はできない

<文科省答申に見るコンピュータリテラシー寄りの解釈の例>

#### ■各専攻分野を通じて培う学士力

#### 2. 汎用的技能

#### (3) 情報リテラシー

情報通信技術（ICT）を用いて、多様な情報を収集・分析して  
適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。

文部科学省 中央教育審議会、『学士課程教育の構築に向けて（答申）』,2008.12

## 2.情報リテラシーとは

### 情報リテラシーとは

収集する

情報と情報源は  
信頼できる？



倫理と法律に  
反していない？

取捨選択する

いま必要な情報は  
どんなもの？  
どこまで必要？



効果的に利用する

## 2.情報リテラシーとは

### 情報リテラシー能力を習得することにより可能となること

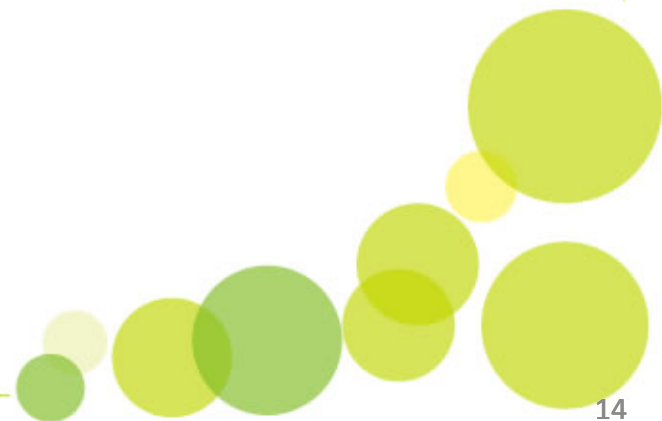
シーンに応じてどのような性質の情報が必要か判断できる

効率的に情報を入手できる  
(情報入手法を知る)

情報を批判的に評価し、  
取捨選択できる

新たな洞察を生み出す  
ことができる

### 3. 大学職員にとっての 情報リテラシー能力とは



### 3.大学職員にとっての情報リテラシー能力とは

#### キーワードは「信頼性」

##### ☆信頼性の高い情報を多面的に収集する力

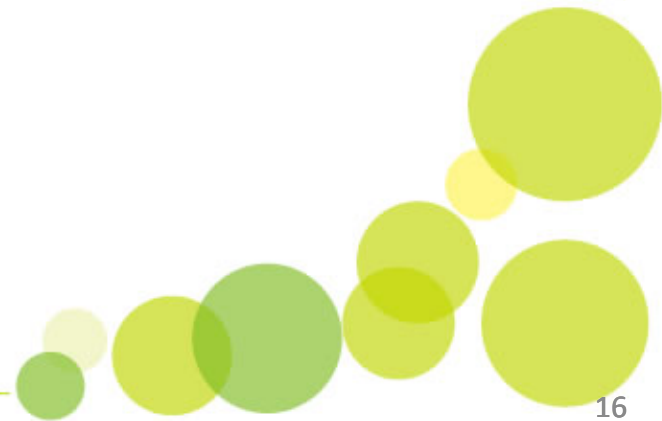
⇒大学職員がWikipediaや検索エンジンで得られる情報のみを引き出しに、学生や世の中のニーズを捉えるのは危険

##### ☆信頼性の高い情報を的確に分析し活用する力

⇒経営を担う人材として、信頼性の高いデータや情報を効率的に収集し、的確に分析し活用する力は必要不可欠



## 4. 情報収集の手法



## 4.情報収集の手法

情報収集・・・何を使ったらいいの？



# 4.情報収集の手法

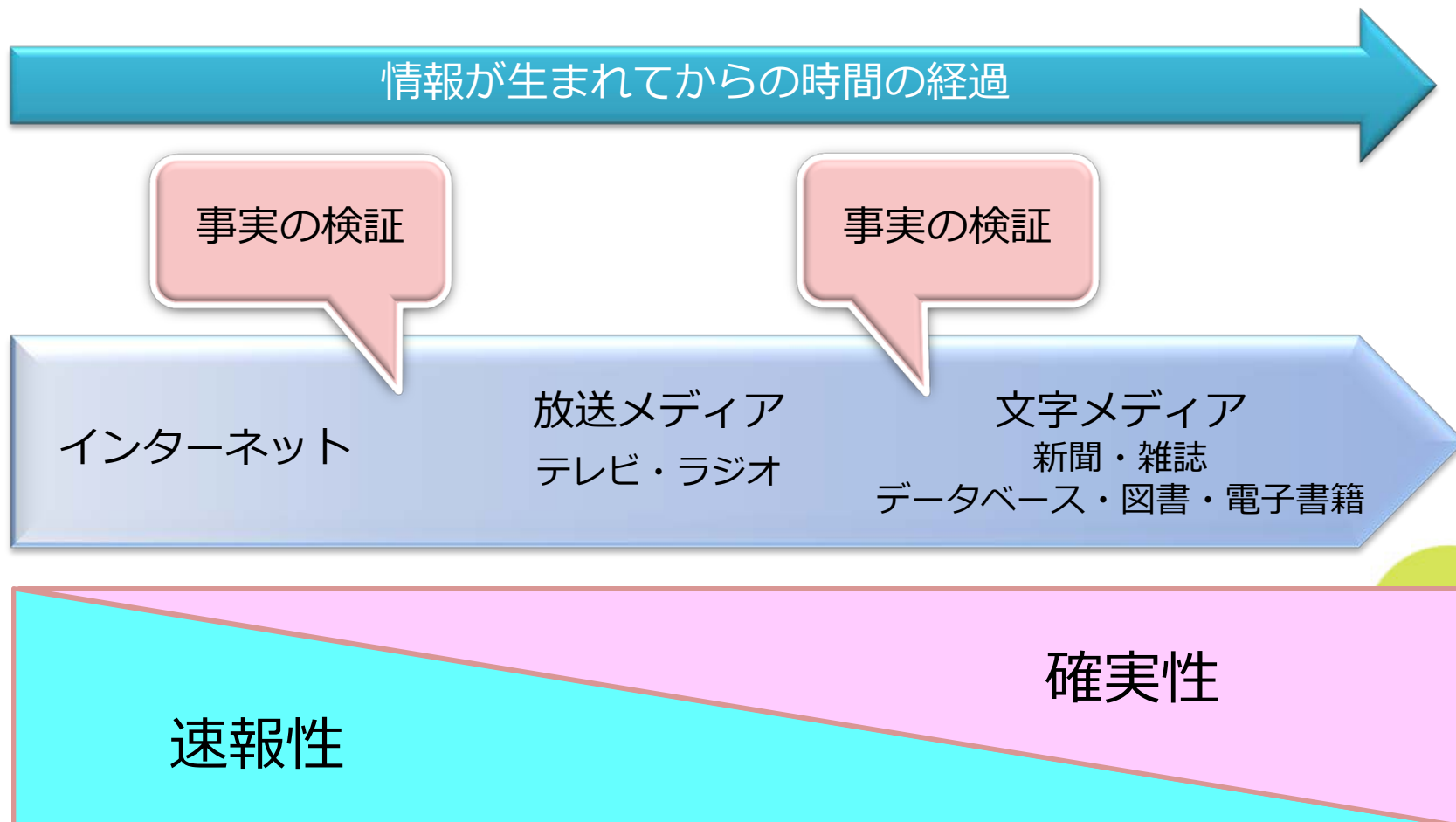
図書館リソース

## 情報収集ツールの種類と特徴

	検索エンジン	無料百科事典	有料データベース・図書・雑誌
ツール例	Google, Yahoo	Wikipedia	K D (河北新報)、JapanKnowledge、CiNii (NII論文情報ナビゲータ)、KAKEN (科学研究費補助金データベース)
信頼性	・ 公的団体の情報は信頼性が高いが、個人発信の情報は出典が不明確な場合がある	誰でも編集に参加できるため、編集者によりまちまち。一部出典が不明確なものもある	科学的・学術的に検証されているため、信頼性は非常に高い
分野	・ 非常に広範囲	・ 広範囲 ・ 体系立てられている	・ 限定的 ・ 体系立てられている
情報の得やすさ	ネット環境さえあれば容易に入手できる	ネット環境さえあれば容易に入手できる	・ 限定的 →機関or個人契約・購入が必要 →代金が高額
情報量	非常に多い	多い	他のツールに比較すると少ない
速報性	非常に高い	作成者によってまちまち	・ データベース：種類による (新聞・雑誌データベースの速報性は高い) ・ 図書資料：速報性に欠ける
情報取得範囲	一部において全文情報の取得が可能	事柄の概要を掴むことができるが、利用の際はほかの情報源と相互参照する必要あり	全文情報の取得が可能 (一部データベースを除く)

# 4.情報収集の手法

## 時間の経過と共に情報の形も変わる



## 4.情報収集の手法

シーンによってツールを使い分けよう！

こんなときには

信頼できる情報が欲しい  
定評のある情報を調べたい  
体系的に情報を調べたい



こんなツールを！

有料データベース  
図書・雑誌

探索の手がかりがほしい  
最新の情報を知りたい  
個人の見解を知りたい



検索エンジン

事柄の概要を知りたい



インターネット上の  
無料百科事典

# 4. 情報収集の手法

## (参考) 編集者の主観が入ったWikipedia記事の例

「歴史教科書問題」の版間の差分

2013年6月2日 (日) 20:19時点における版 (編集)

Pane-pane (会話 | 投稿記録)

(→関連項目)

←古い編集

101行:

\*\*実際には[[ドイツ社会民主党]]以外の政権、特に[[ドイツ社会民主党]]より先政権を担当することが多かった[[キリスト教民主同盟]]などは周辺国の反感を買う歴史認識を示すことも多く、2004年のドイツの政権担当政党がドイツ社会民主党であることを好機として捉えたボラーンド議会在2004年9月ドイツに対し「戦争被害賠償請求決議」を行い、2010年2月にはギリシャのパンガロス副首相が第二次大戦の賠償をドイツに求めると発言して外交問題になるなど、ドイツの戦後処理を巡り近隣国の批判は強い。政権によっては歴史教科書に関しても「ドイツの侵略」といった記述を変更させたり、戦後のドイツ人追放などドイツに対する加害行為も教科書に記載するよう周辺国に要求し圧力をかけることがある。ユダヤ人大量虐殺いわゆるホロコーストを否定する事はドイツでは違法であるが、戦争責任や一般的な戦争犯罪の否定は別口多しい事では無く、1995年に行われた「国防軍の犯罪展」は主に保守層を中心に鋭い批判が行われている。。

([[ドイツの歴史認識]]を参照)

**\* 日本が中国の教科書で、争議のある[[尼港事件]]・[[南京事件 (1937年)|南京事件]]・[[通州事件]]などの記述がないことを批判している一方、日本が行った(とされる)中国人や諸外国人に対する迫害[[南京事件 (1937年)|南京事件]]・[[慰安婦問題]]・[[731部隊]]による[[人体実験]]・[[強制連行]]・[[シンガポールの戦い]]における[[アレクサンドラ病院虐殺事件]]・[[中国系住民虐殺]]・[[ニューギニア島]]など[[東南アジア]]諸国に与えた被害については殆ど記述をしない、または削除するように文部省の教科書検定などをはじめ、政府主導で行っている。**

— \* このような日本が行った[[侵略戦争]]を顕国神社や一部右翼分子を中心に、[[大東亜戦争]]・[[聖戦]]と称して、現在なお美化している。

— \* 日本政府は[[日中戦争]]の謝罪と何度にわたり言いながら、政治家・首相による[[顕国参拜]]や文部省主導の教科書の改悪などで、中国や朝鮮半島やその他日本から戦争被害を受けた人々に対して、謝罪の言葉と全く矛盾している行動をとり続けている。

— \* そして、このような教科書やメディアの報道により、日本は中立的ではなく偏見の甚だしい歪曲した歴史の教育をさせている。

— \* その為に日本の人々のほとんどは真の歴史、特に[[第二次世界大戦]]の歴史を知らない。

— \* 日本のメディアでは中国に対してマイナスの面を中心に報道している。

— \* 日本のメディアの反中報道により[[2005年の中国における反日活動]]が過大に報道され、日本国内で[[中国脅威論]]が起こるきっかけとなった。

== 日本と中華民国 ==

2013年6月11日 (火) 05:51時点における最新版 (編集) (取り消し)

Haukelu (会話 | 投稿記録)

(*出典が明らかではなく個人的な印象としか思えない文章であり、特定の方の編集でもないようですので削除させて頂きました。)*

101行:

\*\*実際には[[ドイツ社会民主党]]以外の政権、特に[[ドイツ社会民主党]]より先政権を担当することが多かった[[キリスト教民主同盟]]などは周辺国の反感を買う歴史認識を示すことも多く、2004年のドイツの政権担当政党がドイツ社会民主党であることを好機として捉えたボラーンド議会在2004年9月ドイツに対し「戦争被害賠償請求決議」を行い、2010年2月にはギリシャのパンガロス副首相が第二次大戦の賠償をドイツに求めると発言して外交問題になるなど、ドイツの戦後処理を巡り近隣国の批判は強い。政権によっては歴史教科書に関しても「ドイツの侵略」といった記述を変更させたり、戦後のドイツ人追放などドイツに対する加害行為も教科書に記載するよう周辺国に要求し圧力をかけることがある。ユダヤ人大量虐殺いわゆるホロコーストを否定する事はドイツでは違法であるが、戦争責任や一般的な戦争犯罪の否定は別口多しい事では無く、1995年に行われた「国防軍の犯罪展」は主に保守層を中心に鋭い批判が行われている。。

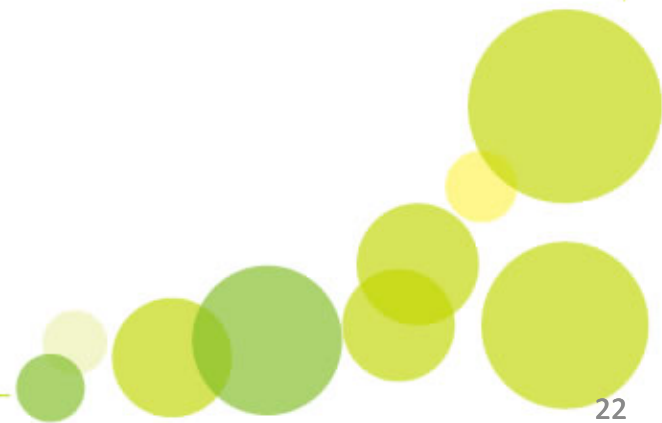
([[ドイツの歴史認識]]を参照)

+

削除

ウィキペディアの特性を理解した上で、情報を取捨選択しましょう

## 5. インターネット上の情報を 利用する際の留意点



## 5. インターネット上の情報を利用する際の留意点

### ☆信頼性の確認

企画書・提案書に引用したり参考文献とする場合に必要

⇒執筆者や公開ドメインの確認

⇒信頼できる機関によって提供された情報であるか？

### ☆参照先URLと最終アクセス日の記録を忘れない

Web上の情報は更新される可能性がある

### ☆コピー&ペーストは避ける

インターネット上の情報にも著作権は存在する

**「なんとなく知っている」「正確性に不安のある」情報を引用した  
企画書・提案書は説得力に欠けることを忘れずに！**



# 5. インターネット上の情報を利用する際の留意点

## ☆ 参照先URLと最終アクセス日の記録の例

移ろいゆくWeb上の情報に信憑性を加えるために、Webから企画書等に引用する場合は最終アクセス日を記録する習慣を付けましょう

おわりに

以上の通り、本稿は、まずID理論、次いでIM理論について論じ、「学士課程教育の構築」という課題にアプローチする方法論として、両理論の持つ可能性を検討してきた。社会や学生にとって望ましい方向で学士課程教育の実質化への取組が進むための一助として、両理論が少しでも多くの関係者の目に留まれば幸いである。

<引用・参考文献>

中央教育審議会, 2005a, 『我が国の高等教育の将来像 (答申)』 (平成 17 年 1 月 28 日)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013101.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013101.htm)

(最終アクセス日: 2009 年 2 月 10 日)

中央教育審議会, 2005b, 『新時代の大学院教育 (答申)』 (平成 17 年 9 月 5 日)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05090501.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05090501.htm)

(最終アクセス日: 2009 年 2 月 11 日)

中央教育審議会, 2008, 『学士課程教育の構築に向けて (答申)』 (平成 20 年 12 月 24 日)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm)

(最終アクセス日: 2009 年 2 月 11 日)

大学評価・学位授与機構, 2008, 『大学評価基準 (機関別認証評価)』 (平成 16 年 10 月 (平成 20 年 2 月改訂))

[http://www.niad.ac.jp/ICSFiles/afieldfile/2008/05/15/no6\\_1\\_1\\_daigakukijun21.pdf](http://www.niad.ac.jp/ICSFiles/afieldfile/2008/05/15/no6_1_1_daigakukijun21.pdf)

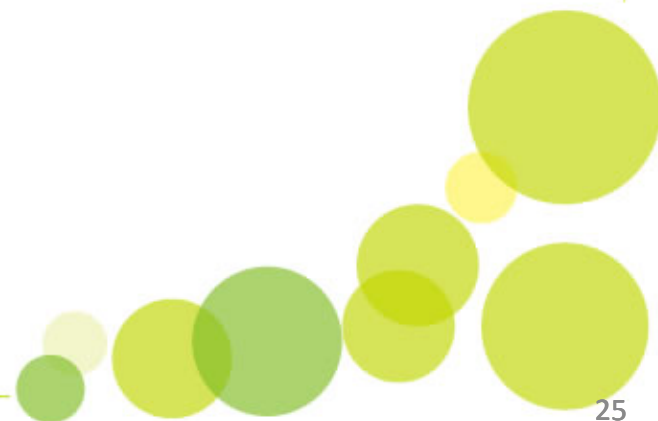
(最終アクセス日: 2009 年 2 月 11 日)

Dick, Walter, Carey, Lou, & Carey, James O., 2001, *The Systematic Design of Instruction* (5th Ed.), Boston: Allyn & Bacon. (= 2004, 角行之監訳『はじめてのインストラクショナルデザイン』ピアソン・エデュケーション.)

Gagne, Robert M., Wager, Walter W., Golas, Katharine C., & Keller, John M., 2005, *Principles of Instructional Design*, Boston: Allyn & Bacon.

大森不二雄, 「学士課程教育の構築と教授システム学」, 『大学教育年報』2009, 第12号, pp.22 の参考文献記述

## 6. 著作権と資料への引用時のルール



## 6.著作権と資料への引用時のルール

### ☆会議資料・企画書等への引用にも著作権は存在します

#### ☆著作権法第三十二条（要約）

- ・公表された著作物は、引用して利用することができる。但し、引用の目的上正当な範囲内で行なわれるものでなければならない

#### ☆著作権法第四十八条（要約）

- ・第三十二条の規定により著作物を引用する場合
  - ⇒著作物の出所を明示しなければならない
  - ⇒表示されている著作者名を示さなければならない  
(当該著作物が無名のものである場合を除く)

## 6.著作権と資料への引用時のルール

### ☆引用の効果

自らの論考を裏付けるデータ（他者の見解や事実、統計）を引用することにより、**論考の信頼性・説得力が高まる**

「人間は根拠で納得する」

### ☆引用にあたって気を付けること

- ① あくまで自分の文章がメイン、引用はそれを補強するもの
- ② 本文と引用箇所を明確に区別する
- ③ 引用元の著作物・著者名を明示する
- ④ 資料の最後に参考文献リストを記載する

資料を読む人々にとっても  
内容を深めるために  
有用な情報となる

## 6.著作権と資料への引用時のルール

### ☆参考文献記載例

#### <図書>

著者

書名

出版者

出版年

引用ページ

田村俊作. 『情報サービス論.新訂版』,東京書籍, 2010, pp.74

#### <雑誌・論集>

著者

論文タイトル

掲載雑誌タイトル

宮嶋恒二. 「大学における「職・職協働」を考える」, 『大学創造別冊  
大学職員ジャーナル』, 2010, 第14巻, pp.27

#### <Webページ>

運営者

出版年

巻号

引用ページ

サイト記事名

立教大学 大学教育開発・支援センター. 『Master of Writing, 2012』  
(オンライン) ,[http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/  
activism/CDSHE/journal/leaflet/](http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/) (参照2013-6-12)

URL

最終アクセス日

# 参考文献

- 1) 宮嶋恒二. 「大学における「職・職協働」を考える」, 『大学創造別冊 大学職員ジャーナル』, 2010, 第14巻, pp.27
- 2) 檜森茂樹. 「大学院での学びの可能性について～名城大学大学院大学・学校づくり研究科での経験～」, 『大学創造別冊 大学職員ジャーナル』, 2009, 第13号, pp.13
- 3) 米国図書館協会. 『情報リテラシー委員会最終報告書』, 1989
- 4) 米国大学・研究図書館協会. 『高等教育のための情報リテラシー能力基準』, 2000
- 5) 田村俊作. 『情報サービス論.新訂版』, 東京書籍, 2010, pp.74
- 6) 東北大学附属図書館. 『東北大学生のための情報探索の基礎知識 基本編』, 2010
- 7) 小野聡. 久保木和義. 『明治大学図書館 図書館活用法レジュメ』, 第11講 文献・情報の探し方(7) インターネット  
(オンライン), [http://www.lib.meiji.ac.jp/howto/application/MH2012\\_11.pdf](http://www.lib.meiji.ac.jp/howto/application/MH2012_11.pdf)  
(参照2013-6-10).
- 8) 立教大学 大学教育開発・支援センター. 『Master of Writing, 2012』 (オンライン), <http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>  
(参照2013-6-12).
- 9) 梅澤貴典. 『中央大学ビジネススクール (CBS) MBA社会人大学院生のための学術情報リテラシー講習会』 (資料), 2013
- 10) 米澤誠. 『大学職員の情報リテラシー能力と職員基礎力の向上』 (学校法人東北学院職員研修会 発表資料), 2011